



医学系研究科長・医学部長

木村 宏

名古屋大学大学院医学研究科博士課程修了。
医学博士。同医学系研究科教授。
2022年より現職。
専門分野はウイルス学、小児科学。

教育・研究の改革を進め 地域に根ざした 世界屈指の研究大学へ

異分野融合、産学連携を拡大し

次代を変える新たな医学・医療を発信する

名古屋大学は1871(明治4)年に設立された名古屋藩の仮病院・仮医学校をルーツとし、おかげさまで2021年創基150周年を迎えました。名古屋大学医学部・大学院医学系研究科は、設立当初からの歴史を継承しながら発展を続け、診療・研究の両面から地域に資する人材を輩出し続けています。現在は新しい医学・医療の開拓を目標に研究力を向上させ、国内はもとより世界でもそのプレゼンスを高めるべく、多様な活動に取り組んでいます。

研究力向上の出発点は教育にあります。学部教育では本年からカリキュラムを変更し、医学教育の内容を充実させるとともに、将来、基礎や臨床の研究者として活躍できる力を持った人材を育てようと教育改革を進めています。

大学院教育では「情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院(CIBoG)」、「メディカルAI人材養成産学協働拠点(AI-MAILs)」の2つのプログラムが動いています。CIBoGには本学の医学系研究科(総合保健学専攻を含む)、情報学研究科、生命農学研究科、創薬科学研究科、岐阜大学の連合農学研究科、自然科学技術研究科の学生が参加し異分野融合を進めながら、将来、情報科学と生命医科学が一体となった領域で中心的に活躍してくれる研究者の育成や研究の活性化を図っています。AI-MAILsでは、岐阜大学、名古屋工業大学、名城大学に加え多くの企業と協働で、医療AI開発から社会実装・出口戦略までを先導できる人材育成を進めています。

医学部において産学連携は重点課題の一つです。中でもトランス

レーショナル・リサーチを推進するために、附属病院の先端医療開発部では、シーズ開発からトランスレーショナル・リサーチ、最終的には創薬を目指して活動を進めてきました。その中で見えてきた課題は、臨床研究を推進する若手研究者、志望する学生が少ないという事態です。この人材不足を解消するために、昨年、医学系研究科に新たに臨床研究教育学講座を設置しました。そこでは座学だけでなく、実際のトランスレーショナル・リサーチの中で必要な知識やノウハウが獲得できるように支援し、将来の臨床研究を担う若手研究者や学生を育成しています。附属病院の機関と研究科の講座を基点に研究と教育を一体化させることで、次代の医療開拓に貢献するトランスレーショナル・リサーチを加速させたいと考えます。

海外の一流大学、世界クラスの研究者とともに

国際的な人材の育成、研究活動を推進

国際交流についてはコロナ禍で滞った部分もありましたが、WEBを通じた交流が大きく前進しました。学部生はミュンヘン大学やモナシュ大学の学生と一緒にオンライン授業に参加し、大学院ではCIBoGの学生がハンズオンセミナーとして海外の学生とともに情報解析などの研究をWEB上でトレーニングしています。

さらに、本学も含め世界8カ国の大学医学部が連携するGlobal Alliance of Medical Excellence (GAME) では海外の一流大学と共同で教育・研究を進め、ジョイント・ディグリー・プログラム(JDP) (※1)では、アデレード大学・ルンド大学・フライブルク大学と連携し、大学院での教育と研究の連携を深めていこうとし

ています。今年度から香港中文大学ともダブル・ディグリー制度をスタートさせます。これらの取り組みを通じて学生に国際性を涵養し、世界へ羽ばたく人材を一人でも増やしたいと思っています。

2020年に発足した東海国立大学機構(※2)については、岐阜大学との連携により事務の効率化などが進み、いよいよ研究や教育面での協力を本格化させていく段階を迎えています。医学部の場合、免許の取得という点で他学部よりも教育手法や内容を共有できる部分が多いため、オンデマンド教材を共同で開発し互いに補完し合うことで、将来的により質の高い教育を効率的に提供できると考えています。研究については両大学が誇る世界トップクラスの糖鎖研究の拠点「糖鎖生命コア研究所(iGCORE)」を設置し、集結した研究者が交流を深めながら研究を発展させています。

私は本学が世界屈指の研究大学になるためには、学生の意識から変革する必要があると考えています。そのために教育改革に力を入れ、現在の医学部生・院生に将来ノーベル賞級の研究を手掛けてもらいたいと期待をしているところです。将来を見据えると、本研究科が世界的に強みのある研究分野に注力していくことも大事でしょう。ただ一方で、希少疾患など大学が取り組まなければ他は手を出さない分野の研究を続けることも私たちの役割です。名古屋大学は指定国立大学(※3)であり、日本有数の研究大学として国際競争力を発揮することが求められます。同時に中部地方の基幹大学でもあり、地域の医療・医学を支えていかなければならないのです。

こうした目標を達成するためには、近隣の大学や研究機関、企業

や行政の方々との連携が欠かせず、互いの協力が前進の原動力となります。本研究科に対する地域の期待は大きく、その重大な責務に私自身、身の引き締まる想いですが、与えられた使命を果たすべく皆さまの力をお借りしながら次なるステップに踏み出してまいります。

※1 ジョイント・ディグリー・プログラム (JDP)

本学医学系研究科と海外の大学とが共同で博士課程プログラムを運営し、1つの学位を授与する。2015年に日本で初めて開設。

※2 国立大学法人東海国立大学機構

名古屋大学と岐阜大学を一法人のもとに統合。両大学の持てる力を共有し、地域創生への貢献と世界屈指の研究大学への発展を目指す。2020年4月設立。

※3 指定国立大学法人

教育研究水準の向上とイノベーション創出を図るため、世界最高水準の教育研究活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人を文部科学大臣が指定。





総合保健学統括専攻長・保健学科長

寶珠山 稔

名古屋大学大学院医学研究科博士課程修了。
医学博士。同医学系研究科 総合保健学専攻 教授。

2018年より現職。

専門分野は臨床神経生理学、神経内科学。

国際水準の研究力をもった次世代情報化社会における ヘルスケアサイエンティストの育成を目指す

名古屋大学医学部保健学科は、1997年(平成9年)に国内では数少ない5専攻(看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学)を有する医学部保健学科として設置されました。2012年(平成24年)には、大学院医学系研究科として大学院中心の研究・教育組織へと組織強化を進め、2020年度(令和2年度)には、来るべき情報化社会の中で様々な医療関連分野でリーダーとなる“ヘルスケアサイエンティスト”の育成を目指す「総合保健学専攻」として情報科学の研究と教育を取り入れた新たな大学院体制へと組織改編を行いました。名古屋大学が掲げる「世界屈指の知的成果を産み出す」、「勇気ある知識人を育てる」という基本目標のもとに、情報科学リテラシと国際力をもった保健医療分野の人材育成を推進し、学生が夢を描いて成長し、社会に貢献する人材となっていくための研究教育活動に取り組んでいます。

本邦では社会全体の情報化とともに高度先進医療と医療情報科学がめざましく発展しつつあります。本学科・大学院は保健医療分野研究の発展を国際的レベルで目指しつつ、医療専門職に

とどまらない幅広い医療関連分野で活躍する人材育成を目指しています。本学科・大学院の教育では、これまで大学・大学院と臨床現場の病院との連携による人材育成、研究・教育の発展に努めてきています。さらに国際力のある人材の育成として、「博士課程教育リーディングプログラム『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー育成プログラム」(2013年度・文部科学省採択)に取り組み、幅広い視野を持つグローバルリーダーの育成を図ってきました。さらに2020年度の大学院(保健学)組織改編と目標を同じくする「情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院(CIBoG)(2019年度・同採択)」への参画し、世界水準の研究と次世代の情報化医療を担う人材の育成に努めています。

名古屋大学の自由闊達な学風で育った卒業生・修了生には、激しく変化する社会やこれまで経験したことのない世界的な事象の中で保健医療分野に山積する問題に、臆せず自信をもって立ち向かってほしいと願うものです。